

はばだけ 広島サンダーズ

久原 大輝

レギュラークラウンド最終戦となったアウェーでの東レ静岡戦。今季中盤から途中出場する機会が増え、チームに安定感をもたらしている、武智洸史選手のサービスエ

成長し続けた44試合



東レ静岡戦の試合前の
集合写真 (6日)

1スで幕を閉じた。
44試合を戦い終えた率直な思いは、とにかく「長かった」の一言に尽きる。開幕戦で出場機会がなかった高木啓士郎、金子聖輝両選手が、コート上で中心となってチームをけん引。新井雄大選手は、大一番でのオポジット起用に見事応え、点取り屋として覚醒。三輪大将選手は全セット出場を果たし、ミドルブロッカーとして飛躍した。

一時はチャンピオンシップ進出すら危うい順位まで後退。何度も心を折られてきたが、選手たちは日々のハードワークを怠らず、己を信じ続けた。その結果、自分たちの力でチャンピオンシップ進出を手繰り寄せた。

安心して居る暇はない。これから戦う相手は、全て上位のチーム。だが、今のサンダーズに失うものは何もない。リーグ最終盤で、負けたら終わりの修羅場をくぐり抜けた経験が、チームを大きく成長させた。私は自負している。

このメンバーでともに戦うのも残りわずか。最強の挑戦者として、全員でチャンピオンシップをつかみにいく。(広島Tマネジャー)